

平成29年度 輪之内町立仁木小学校 自己評価書(2学期末用)

学校の教育目標	ひろい心もち、豊かに表現できる子
経営の重点	学校の教育目標の具現に徹する学校の経営 ～一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす意図的・継続的な指導・支援の推進 ①学級経営 ②学習指導 ③安全教育 ④道徳教育 ⑤学校評価 ⑥保護者とのコミュニケーション

※評価欄の記号 評価基準
 A：実践し、効果をあげることができた
 B：実践し、一応の効果をあげることができた
 C：実践し、僅かだが効果をあげることができた
 D：実践したが、効果をあげることができなかった

町の重点	評価の観点	教員評価ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1 ◎ <特色ある学校> 幼保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	72	B	PTAの方の協力で、5年生の米作りの活動が、スムーズにできた。 いなほ祭りも工夫がされていた。 子ども園と小学校の交流、中学校見学などの実施		・子ども園、小学校、中学校の連携がよくできている。
	2 <開かれた学校> 学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	78	A	町研において保護者にも参観をしてもらい学校で力を入れている学習について普段の授業参観とは違う形で見てもらった。 授業参観日以外で、朝の音楽集をフリー参観にし、朝の出勤前に行きやすい状況を作っている。該当する学年の保護者が大勢参観して下さっている。 保護者アンケートをとってまとめた。 音楽集など保護者が子どもの様子を参観することができていた。	いなほ祭りの親子活動は内容を再考するほうがよい	・町研での子どもたちの学習態度が大変よく、他校の先生方や地域の方によい姿を見てもらった。
	3 <資質・指導力の向上> 教職員資質や指導力の向上のため、授業研究とともに、コンプライアンスについての校内研修を組織的・計画的に実施する。	75	B	町研での授業公開に向けて、教材研究や授業の進め方など研修を進めることができた。 教頭先生からの出される不定期の通信により、考えていかなければならないことなど、研修できた。	教頭通信や職員会の資質向上委員会からの提案で計画的にモラル、コンプライアンス等について職員の意識向上につながる研修を充実させる。	・先生方の話し方が間違っていた意見でも言ってもよいと感じることができた。
	4 <危機管理> 児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	75	B	洪水ハザードマップ確認	命を守る訓練の計画的な実施と、それに伴って職員の非常時の動きの確認をする。 全職員が全校児童を見守っていく姿勢を持ち続けていく。	・休み時間に運動場で先生が子どもたちとつよよに過ごしていた。
	5 <勤務の適正化> 校務分掌や運営組織等を見直すなどして十分に業務のスリム化を図り、教職員の児童生徒に関わる時間を確保するとともに、教職員自身が心身共に健康で、やりがいをもって教育活動に取り組めるよう、学校経営の充実を図る。	64	B	水曜日ノー残業デーの取り組みの徹底。 職員が2ヶ月に1回なので、会議の回数は減った。会議のない月曜日は、放課後に時間があり、事務的な仕事ができる。 水曜日は18時に帰宅するように声をかけて下さり意識できるようになった。 らくらく校務システムの導入 不必要なものを明らかにして効率よく執務することを意識した。 終礼の時間の有効活用(週報による確認・指導力向上につながる振り返り)	行事と行事の間隔が詰まっていると感じることが多く、多忙を感じるが多かったため、行事を行う時期を見直したい。 生活指導部会では、生徒指導と体育保健指導があり、2ヶ月に1回になると、とても多くの議事内容になる。3ヶ月先の行事計画もあり、見通しが持てない。2部会の時間が長くなったり、後日に話し合いの時間をとることになる。 個人懇談が2回あるので12月は希望制にしてはどうか 校務分掌が増えて月々の提出物も増えてしまった。	
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	6 ◎ <校内研修> 校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や児童生徒の教育的ニーズに対応する確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	86	A	校内研を中心に、算数科における指導について研修し、指導力を高めることができた。 研推から、学校全体として算数科の授業で力を入れていく事の周知があり、共通理解をして授業づくりをすることができた。 10月の町研に向けて、どの学級も算数のよりよい指導法を考えることができた。 海津支援学校の部主事の先生を招いて研修を行うことができた。 算数の授業を全職員で交流して授業のレベルアップができた。 町研での授業公開と研究発表		・町研に向け、全ての先生が協力して研究を深められた。
	7 <個人研修> 経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	78	A	海津特別支援学校の先生やQUの研修など外部講師を招き研修ができてよかった 教科研究会参加 児童の実態把握と対応力を向上させるための研修に積極的に参加した。	できるだけ多くの機会外部講師の研修をもつ研修内容の精選をして時間を有効に使う。学校を空けることを気にしていたが、今回は他府県での研修に参加させていただきたい。	
	8 <情報研修> 分かる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。	70	B	どの学級も効果的にICTの活用をしている。(発達段階に応じて、実物投影機にノートなどを写すなど) 成績処理についての研修に時間を設けられていた。	計画的に行えるよう、見直しをもって指導を進めたい。	
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する	9 ◎ <基礎基本の定着> 指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	75	B	単元指導計画をもとに特に算数科の授業の工夫に力をいれた。		
	10 <個に応じた指導> 指導内容の系統性、教科間・学校段階間のつながりを踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見届ける。	75	B	みのりチャレンジを中心に、基礎基本が身につけているか確認することができた。 経験ある支援員さんが多いので、担任と連携をとりながら、個に応じた支援をすすめることができている。 支援員の補助、個別指導などを行って学力の定着を図った。		・研究を通して、子どもに合った指導の方法を考えている。
	11 <学習集団づくり> 互いの見方・考え方を学び合うことを通して、質の高い学びを実現する学習集団を育成するとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	67	B	意図的にグループ交流を位置づけることで、互いの考え方を学び合う方法が身につけてきた。 学校全体で、授業の中で交流活動を工夫して位置づけ、仲間と学び合う学習集団を育成した。 1学期に比べ、落ち着いた学級が増えてきた。 友だちの話を聞く体制ができてきた。	1学期と2学期に実施したQU検査の分析と伸びを生かした班編成等、学級集団づくりに生かす。また取り組みながらリニューアルするなど子どもと共に創りあげる意識をもつ。	
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	12 <全教育活動を通じた道徳教育> 道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる指導体制や指導計画を工夫改善する。	64	B	来年度実施の教科としての道徳のあり方や指導の重点など今後の動向を鑑みた職員研修がなされていない。	次年度を見越した道徳教育の方向性の周知	
	13 <道徳の時間> 道徳的価値の理解を自分との関わりで考えるとともに、多様な考え方や感じ方に接して物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に生き方についての考えを深める道徳の時間(特別の教科道徳)を充実する。	70	B	人権集会やハートプロジェクトを実施していた。	授業過程において、自己を振り返る時間をどのようにもつかを考えていく必要がある。	・通学の途中、友だちや下級生に優しい言葉をかけている。 ・校内や地域での明るく元気なあいさつの姿が増えている ・道徳の評価について子どもが置かれた環境が違うので十分気をつけてもらいたい。
	14 <心を育む体験活動> ふるさと教育や「あいさつ・美化・ボランティア」への取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	75	B	草取り等、ボランティアとして休み時間に取り組むことができた。 挨拶の声が増えてきた。繰り返しの取り組みの成果が出てきている。 児童会の委員会が中心になり、キャンペーンの取り組みをした。各学級の担任の先生も協力して、子ども達に成果がみられるようにしている。 道徳の時間を確保して指導を行った。	あいさつ、そうじ全校で定着できるように、重点的に、指導していく必要がある。	
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	15 ◎ <指導計画・指導体制> 小学校中学年と高学年、高学年と中学校との接続を踏まえた指導計画を工夫改善し、指導体制を整える。	78	A	完全実施を見越した来年度からの動きを周知できた。さらに授業実践を通して今後の方向性を示すことができた。町統一の動きを研修を通して学び合えた。	来年度からの英語の授業に向けてより具体的な計画や指導計画の作成が必要である。	・外国語活動はALTといっしょに楽しく活動するので、どの子どももいやだとは言わないだろう。
	16 <指導過程> 積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	81	A	指導をパターン化することにより、児童が見通しをもって、楽しく活動することができた。 わのうちキッズの撮影を発表の場にする事で自分の英語力を高めることにつながったゲームを通して楽しく学ぶことができた。	次年度から活用する教科書を全職員が目を通していつでも誰でも実践可能な状況になっている現在の状況を把握して英語科、外国語活動に向けた指導準備をする。	
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	17 <全体計画・指導計画> 小・中学校の接続や各学校の目標を踏まえ、学習のねらいや内容、各教科等との関連を一層明確にし、課題意識が連続発展するよう全体計画や指導計画を工夫改善する。	72	B	外部の講師を招いて具体的な指導ができたところはよかった。 長年、総合的な学習の研究をしてきたので、今までの取り組みを元に、すすめることができた。	核になる授業からその前後の展開についてより明確に計画する必要がある。	・校長先生の思いが地域や保護者の皆さんに理解してもらえたと思う。
	18 ◎ <探究的な学習> 身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に動かせるよう、体験活動や言語活動を意図的に設定した探究活動や指導・援助を充実する。	69	B	米作りにおける活動は、「おやじの会」の方を中心にお世話になって体験活動ができた。		

町の重点	評価の観点	教員評価ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価	
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる	19	<指導と評価>児童生徒の自発的、自治的な活動(いじめ問題への取組等)を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分のよさや可能性を發揮してよりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を一層工夫改善する。	69	B	年間行事の見直しと諸活動のねらいを改善して、自治的な活動が継続して行われるよう配慮する。	B ・委員会活動を通して、自分たちで楽しい学校をめざした活動ができています。	
	20	<学級経営>学級の諸問題を解決する活動を通して、望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育て、学級経営を充実する。	67	B	行事を核として、班長会をもち、自分たちで活動を考え実行することができた。学級代表や班長の組織が働くようになり取り組みを位置づけた。各学年のよい子と見つけ等の活動を全校の場で紹介し合うことで、自分たちの実践が価値あるものであったことを自覚できた。		
【生徒指導】 共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる	21	<生徒指導(教育相談)体制>不登校や問題行動(いじめ、暴力行為、薬物乱用、性非行、インターネットを利用した誹謗中傷や違法行為等)については、全職員が危機意識をもち、早期発見・早期対応はもとより未然防止に重点的に取り組み、家庭や地域・関係諸機関等との情報共有と行動連携を強化し、組織的に対応する。	69	B	問題があった場合には、ケース会議を開き、組織的に対応している。いじめや問題行動が分かった時に組織的に素早く対応できた。教育相談担当が、養護教諭であることで、子どもとのつながりが密接で、不登校の子の対応を即することができた。問題があったときには、生徒指導、教頭先生、校長先生などが相談のついでに下り、担任だけでは足りない先生による指導ができた。養護教諭や保護司の先生と連携を図り薬物乱用防止教室を実施している。教育相談は職員会での提案や行事予定に組み込んでもらって、確実に時間の確保ができるようにした。教育相談担当のきめ細やかで、子どもに寄り添った指導は児童一人ひとりの今の状況や今後の対策を練る上で、非常に役割が大きかった。	どの学級も気になる児童がいる。早期発見・早期対応をすすめていきたい。子どもの変化を敏感にとらえて、さらに情報共有等連携を図っていく。不登校児童の対応が組織としてはあまり機能していない。終礼等で生徒指導交流がされたが、未然防止策として何が必要でどんな動きをしていくと改善されるかという話し合いの場がもてていない。問題が起こったからの対策ではなく育てたい子ども像について話し、生徒指導中心に会を位置付けていく。	B ・一人一人の子どもの状況に合わせて、学校でできることを工夫して指導している。 ・登校途中のトラブルが減っている。逆に小さい子の荷物を大きい子をもってあげる姿が見られる。
	22	<学年・学級経営>一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感・達成感を味わい、望ましい人間関係を築くことができるよう、児童生徒の関わり合いを大切に学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	69	B	QU研修会で、学級の実態を分析したことが、一人一人を大切に学級経営につながっている。	第2回のQUテストの結果を3学期の学級経営に生かす。	
	23	<生命尊重・倫理観・規範意識>全教育活動を通して、一人一人が自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を向上させることができるよう指導を徹底する。	72	B	来室児童を中心に、個別指導できた。	指導したときに理解できても、その時の自分の感情で相手を傷つけたり自分の気持ちを最優先してしまう子に対しては、あきらめずに指導を続けていく。	
【進路指導】 自己の生き方考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	24	<勤労観・職業観>望ましい勤労観・職業観が育つよう、他の教育活動との関連を図り、ねらいを明確にした体験活動(職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など)を位置づけるとともに、事前や事後の指導を充実する。	67	B	12月になり、掃除見学やキャンペーンを取り組むことで、一生涯掃除をする姿が増えた。学年によっては、黙々掃除がしっかりとできている。教室掃除は、学年によってはほとんどの数で掃除をして、担任の先生もそばにすることが多く、一生涯掃除している姿が多い。	未だに私語をして掃除をしている姿がある。教師が見ていなくても掃除ができてくる児童が増えてきてはいるが、教師がいなくて遊んでいる子がいる。	B ・校舎が改修されきれいになったが、それを保とうと掃除を頑張っている姿がある。
	25	<ガイダンス>一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。(中)	64	B			
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	26	<保健・安全・食>児童生徒の体力・運動能力、食生活等の生活習慣、心身の健康状態及び安全に対する意識・行動を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「健康・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	72	B	栄養教諭が本校職員なので、他校と比較して給食時間にたくさん指導をしていただける。大変ありがたいことである。給食の時間に放送で、献立や献立に関するお話があり、集中して聞いている児童も多い。学校保健委員会を開催して、学校医等に指導をいただきながら健康推進に取り組んだ。担任と連携を図りながら実態に合った指導を行った。	食育に関わる学級活動を栄養教諭を中心に計画実施したい。実践力につながる指導を続ける必要がある。大きな事故やけがの防止のために、安全な廊下歩行や校内での過ごし方を指導していく。発育測定の時などに実施された保健指導が「価値が高く全職員に周知していけるとよかった。引き続き実践されたい。	A ・少し疲れたような雰囲気の子が見られる。しかし、休み時間には外へ出て遊んでいる子が多いようだ。
	27	<運動推進>児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	83	A	水泳カードや縄跳びカード、マラソカードなどが準備され目標をもって取り組む準備がなされた。休み時間以外で元気よく遊んでいる姿が見られる。2学期末には、縄跳びを積極的に取り組む姿がある。朝マラソンほとんどの児童が歩かずに取り組んでいる。みどりの時間に全員が外へ出ることを委員会できちんと意識づけができた。朝マラソンでそれぞれが目標を持って走っていた。	ソードのよりよい活用や成果の発表の場をもちたい。みどりの時間には、全員が外へ出ることが約束ではあるが、徹底されていない。予定係がゆっくりにしたり、それを待っている姿があったり、全職員が同一歩調で取り組むとよい。寒くなってきてなかなか外へ行かない児童がいるので声をかけていきたい。みどりの時間に予定係以外には外へ出ることが徹底されていない時がある。遊ばなくても外へ出るように呼びかける。	
	28	<未然防止>児童生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を發揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。	69	B	毎日、アレジャーがパソコンで立ち上がり、どの先生も見守る習慣が定着している。情報の共有ができた。食物アレルギー事故防止のためにアレジャーを有効活用できている。	3学期は風邪やインフルエンザの流行時期である。手洗いやうがい、換気を行っていただく必要がある。	
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	29	<校内支援体制>特別支援教育コーディネーターを中心として、こども園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童生徒理解を図り、一人一人の教育的ニーズを正しく理解して、全教職員が組織的に合理的配慮の一層の充実に努める。	67	B	発達支援センター「そら」の田内先生からの情報や様子を見ていただいたアドバイスを担任と連携もとれている。	通級教室における指導について研修を行うことで、通常学級での配慮について考える場をもちたい。コーディネーターが学級担任なので、全校児童を把握することができていない。コーディネーターは発達障害と診断されている児童もいるので、支援計画や指導計画が作成されていても、活用までに至っていない。また、通常学級に在籍している児童の支援シートを形式にこだわらず、記入して、来年度の引き継ぎができるようにする。	B ・その子にあった配慮ができるように先生方が努力されている。
	30	<個別の支援>本人・保護者との合意形成及び関係機関との連携の下、合理的配慮の継続的な提供及び定期的な見直しができるよう「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を發揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	69	B	特別支援学級及び通級の児童に関しては、保護者と連携し、個別の教育支援計画を作成することができている。		
	31	<交流及び共同学習>特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的にを行い、社会性や豊かな人間性を育むことができるよう指導を充実する。	64	B	芸術教科や体育などを中心に、通常の学級で交流をすることができた。	その子にあった支援が必要である。総合的な学習の時間も、特別支援で学習してもいいのではないかと。特別支援学級の児童それぞれに交流するねらいがあり、つきたい力を明確にして、交流することができていないように感じる。通常の学級の児童も交流することで学ぶことがある。ねらいを明確にして交流して評価すべきである。	
【人権教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	32	<望ましい人間関係>互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	81	A	ひびきあいの日にともなう人権集会から企画委員会の取り組み、ひびきあひ集会、人権劇と一連の取り組みをもち人権について考える機会ももてた。毎朝、校門や玄関で子ども達を迎えている先生がいることで、子ども達の変化を感じることができたり情報交換をすることができた。あらゆる場面で指導の機会と捉えて個人指導教育相談を行うことで、一人一人と話す時間をとれた。教育相談の時間を確保して、子ども達の思いを聞くことができた。何がいじめなのかを認識させる指導を行った。	1学期から運動会にかけて、縦割りで縄跳びをして、縦割りの交流ができたが、運動会後の縦割り活動がなかった。6年生のよさを引き出すためにも、縦割りの活動を定期的に行うとよい。お互いを尊重し合う関係作りがまだ希薄であると感じる。よいところ見つけ等をさらに続けて、子どもの良い姿を見逃さないように認めていく人数が多く、毎月全員の子どもとの教育相談ができていない現状である。まだ特定の児童に対する暴言などがあり、引き続き継続して指導にあたりたい。	B ・あらゆる場をとらえてくり返し、自分や他の人を大切にすることを指導をお願いしたい。 ・人権の取り組みを通して人を思いやる姿が増えた。
	33	<いじめ・差別の根絶>いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	61	B			
【情報教育・図書館教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる。日常的に読書に親しみ、教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる	34	<情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	64	B	毎月の活用状況の調査をすると、担任の先生方が、積極的に活用している。	段階的な指導をするための指標となるものを明確にしたい。みのり発表会に向けて、パソコン室の活用が増えるが、計画的にパソコンの活用をしていくとよい。	B ・町の情報モラルS限を活用し、情報モラルの大切さについて繰り返し指導してほしい。
	35	<情報モラル>情報モラル(SNSを介したネットトラブル等)について、意図的・効果的な指導を行う。	72	B	各学年で意識して指導してもらった各学年に合わせたアニメーションなどで情報モラルについての指導を実施。	子どもたちには情報モラルの授業をしていたり、情報モラル宣言が策定された話をしていて、保護者には意識がなく、50%しか知らない状況である。保護者の意識を変えることは難しいが、啓発活動を続ける必要がある。たんぼネットの情報モラルの指導の資料が少し古いので順次新しいものにしてもらえるとうい。(LINE、オンラインゲームなどに対応できる物)	
	36	<図書館教育>学校図書館を利用しやすく整備し、図書館の計画的な活用や読書活動の推進に取り組む。	72	B	図書館司書が来校する日は、各学級が計画的に図書館利用の時間を入れている。週1回図書館の日を設定して、授業時間に図書館活用をする学級もあり、よく利用されている。	学級で図書館に行き図書館利用できているが、休み時間など進んで図書館を利用する児童は決まっている。せめて、図書館司書の来校の曜日には進んでいけるような工夫が必要である。調べ学習に使用する図書配置の工夫が必要である。	

町の重点	評価の観点	教員評価ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる	37 ◎ <ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	75	B	米作りを通して、ふるさと学習を推進できた。3年生は懸崖菊作りを通して、輪之内町の特産物である懸崖菊と、それに携わる地域の方との交流をすることができた。	3年生は、3学期に仁木小学校の歴史についても学ぶ機会があり、さらに、みのり発表会で発信する機会がある。保護者の方にも聞いてもらえる。	B ・米作りや懸崖菊づくりの学習など、地域の産業や文化を学んでもらいたい。
	38 <国際交流>国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。	69	B	ALTのカラ先生が、給食時間に各学級に入室して、いろいろ交流して下さることはありがたい。休み時間も子ども達の要求に答え、外に出て遊んで下さるで頭が下がる。授業時間ではない時の交流こそ異文化を理解するチャンスである。	授業時間の開始やランチのお迎えに、各学級の日直や係が職員室までやってくるが、2学期後半になっても、なかなか英語で言えていない。低学年は別として3年生以上はお迎えの決まった文言は言えるようにして職員室へ入室し、お迎えの準備をしようとする。	
【防災教育】 自らの命を守るための防災意識の向上を図る	39 <防災教育推進>学校防災マニュアル等について、学校や地域社会の実態を踏まえた改善を行うとともに、マニュアルに基づく訓練や校内研修会を実施するなど、安全管理体制と一体化した防災教育を推進する。	72	B	保健主事の先生が、ハザードマップを職員に配付し、終礼で研修を行うことができた。水害に関する命を守る訓練を通して、子ども達に普段の火災時の避難とは違う防災教育をすることができた。 命を守る訓練の実施 町の保健主事会で各校の実践を交流することが出来た。町内で足並みを揃えてこども園、小中学校連携による引き継ぎ訓練が実施できた。また、成果と課題についても検討できた。	不明者ありの命を守る訓練ができないままで今年度が終わろうとしている。天候のこともあり、なるべく暖かい日にできるように取り組んでいきたい。 不審者対応のたんぼぼ班の活用をするために、電話予約をタイミング良くしたい。 Jアラートや停電時のメール配信など、町の役場との関わりで要望等を発信する必要がある。防災全体計画をさらに見直ししていく必要がある。	A
【家庭学習の充実】 自分の力で学習ができる児童生徒を育てる	40 <家庭学習習慣>家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。	72	B	1学期よりも、ドリル学習を中心に家庭学習の習慣の定着をはかることができた。自主学習においても、少しずつ実態に応じて進められるよう指導することができた。 自主的に学習できる児童とそうでない児童とさらに差が開いてきている パワーアップ週間の取り組みと反省	レベルアップキャンペーンの持ち方について考えていきたい。早く帰り何をするのか、それができたのかを確認する事を大切にしたい。 果たして、手引きが活用されているのか疑問である。時折、担任から子ども達へ、通信などで保護者に伝えるなど、常時意識させる手立てをうつ必要がある。 レベルアップキャンペーン時は、5時間授業とし、6時間目は学校でドリル学習等を進める。その時間を教育相談の週として、有効に活用するとよい。 レベルアップキャンペーンで5時間にするより計算漢字練習に取り組み 家庭学習時間の分析以上に、学習内容についての検討と見届けを大切にする。	B ・宿題の量や内容について、より工夫していくとよいと思う。